

平成27年度

河川名	地点	水素イオン濃度		生物化学的酸素要求量		浮遊物質		溶存酸素量					
		PH		BOD		SS		DO					
		月	年平均	月	年平均	月	年平均	月	年平均				
神田川	久保前橋	5	8.4	7.9	5	0.6	1.9	5	1	1.8	5	10.6	10.1
		9	7.5		9	4.9		9	4		9	6.9	
		11	8		11	0.6		11	1		11	10.4	
		2	7.8		2	1.3		2	1		2	12.5	
	高戸橋	5	6.9	7.0	5	0.5	2.6	5	<1	1.0	5	8.4	8.2
		9	7		9	6.8		9	1		9	7.6	
		11	7.3		11	2		11	<1		11	7.8	
		2	6.8		2	1.2		2	<1		2	9.1	
妙正寺川	四村橋	5	7.7	7.5	5	1	2.4	5	<1	3.0	5	10.8	9.0
		9	7.3		9	6.8		9	5		9	6.3	
		11	7.5		11	0.7		11	1		11	8.6	
		2	7.3		2	0.9		2	<1		2	10.1	

各項目の解説

水素イオン濃度 (PH)

水の酸性、アルカリ性を示す指標。0から14の間の数値で表現されています。PHの数値が7だと中性、7から小さくなるほど酸性が強くなり、7から大きくなるとアルカリ性が強いことを表しています。

環境基準 6.5～8.5(C類型)

生物化学的酸素要求量 (BOD)

微生物が水中の汚れ(有機物)を食べる(酸化分析)時に必要とされる酸素の量をもって表したものです。値が大きくなるほど河川が汚れているということを表しています。

環境基準 5mg/l以下(C類型)

浮遊物質 (SS)

水中に浮遊している不溶性の物質。水の濁りの原因となる。光の透過を妨げ、河底に堆積すると河底の生物にも悪影響を及ぼします。

環境基準 50mg/l以下

溶存酸素量 (DO)

水中に溶解している酸素の量です。1気圧のもとで20度の清水には約9mg/lの酸素が溶け込みます。気圧、水温などによっても数値は変動します。また、日中、水中植物の光合成が行われるとDOは高くなります。

環境基準 5mg/l以上(C類型)